

meiji 駿台倶楽部会報

明治大学野球部OB会ニュース

発行 駿台倶楽部
会長 荒井 信久
府中市若松町5-6-1
明治大学野球部合宿所内
電話番号(042)313-4134
FAX番号(042)364-5605

後半に怒濤の追い上げ 6連勝届かず



若手投手の成長収穫

101年目の春は悔しい2位に終わった。春季リーグ戦は4月11日に開幕、秋春連覇を狙う明大は前半戦苦戦を強いられた。東大に連勝した後、慶大に1勝2敗で勝ち点を落とした。この敗戦が最後まで響いた。3カード目の立大1回戦にも敗れBクラス転落さえ現実味を浴びたが、ここから意地を見せ、同2回戦から早大、法大まで怒濤の6連勝。優勝には届かなかったが、9勝3敗、勝ち点を4まで積み上げ最後まで慶大にプレッシャーをかけた戦いは立派だった。

昨秋の最優秀防御率賞に輝いた大室亮満(3年)は高松商(が)肩の不調でベンチ外。リーグ戦未経験の投手が多い中、平嶋桂知(2年)大阪桐蔭、湯田統真(3年)仙台大が成長。平嶋は2勝、防御率1・50の2位と大きく成長。不振の打線も中盤から本来の力を取り戻し6連勝につなげた。

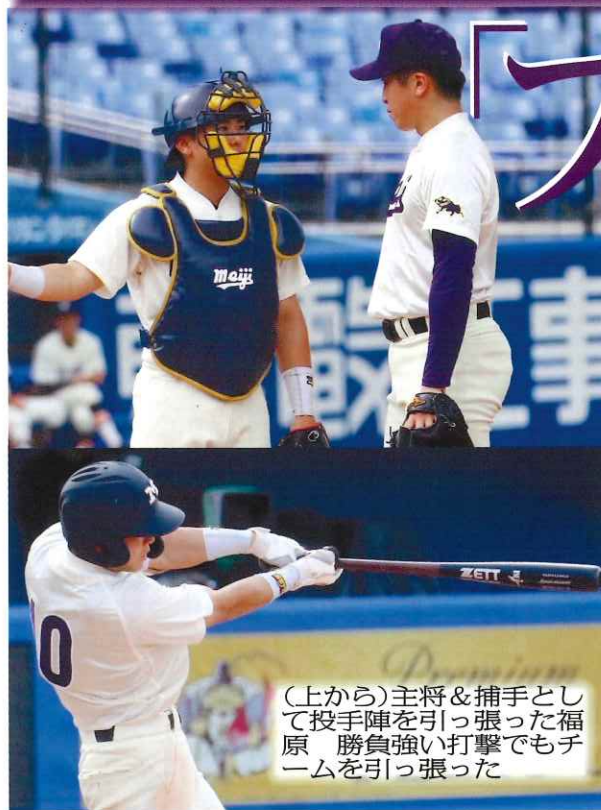
ベストナインには主将の福原聖矢捕手(4年)東海大菅生(初)内海優太一塁手(同)広陵(初)の2人が選出された。また岡田啓吾内野手(同)前橋育英、榊原七斗外野手(同)報徳学園が大学日本代表に選ばれた。

6連勝でリーグ戦を終え
あいさつする明大ナイン

9勝3敗 勝ち点4の2位

福原主将 逆襲の秋へ

リーグ経験少ない投手陣引っ張り勝ち点4



(上から)主将と捕手として投手陣を引っ張った福原 勝負強い打撃でもチームを引っ張った

「プラス材料」

経験の少ない投手陣をまとめ、チームを勝ち点4まで押し上げたのは捕手の福原聖矢主将を中心とした4年生の力だった。苦しかった前半戦を乗り越え後半戦は明大本来の戦いで6連勝フィニッシュ。この経験は必ず秋に生かす。

四球から自滅も
昨秋、10戦全勝の偉業を達成。その要因の一つに四球撲滅作戦があった。四球で出した走者が得点に絡むケースが多く、バッテリーは「ムダな四球を出さない」と話し合い、1試合2・2個と激減した。しかしそれは毛利、大川、菱川らリーグ戦経験豊富な投手陣がいたことも大きかった。今季は三浦、松本直の4年生以外、リーグ経験はほとんどない投手陣。案の定、四球から長打を浴びる

大戦で勝ち点を落とすなど不安の中でのリーグ戦だった。慶大戦を振り返り福原は「投手陣が安定できなかった。自滅する感じだった」と話す。投手が不安定なら打線でカバーしたかったが、それも機能しなかった。福原が好機で適時打を放つなど引っ張ったが、ドフト候補の榊原がなかなか復調しなかった。守りの要・福原は投手陣に「いいボールは来ているんだ。ストライクゾーンで勝負しよう」と訴えた。打たれることを怖がらずミット目がけて投げてこい」と。4年生の三浦

松本直が救った!! 8戦登板2勝2S

この男がいなかったらチームは間違いなくBクラスに転落していただろう。背番号「20」を背負った松本直は13試合中8試合に登板、2勝2セーブと投手陣を支えた。20番は副主将が付ける背番。肩書きはなくても戸塚監督が「投手を任せたい」の思いからこの番号を与えた。負け試合でもロング救援したりチームのために腕を振った。



早大戦で勝利を挙げたツッポーズの松本直

昨年まではマウンドで力むこともあったが、最上級生になった自覚か。「ボクの後ろはいないので、その覚悟でマウンドに行ってます。投球の引き出しも増えたと、打者を見ながら投げられています」と防御率も1.10と安定。ファウルさせるストレート、空振り狙うボールと投げ分かれる投球は光る。150km/hを超えるストレートにスプリットを軸にスカウトの評価も上々だ。

昨年の守護神・大川（日本ハム）に比べてもひけは取らない。若い投手陣を支える松本直が秋も最後に控えてチームに勝利を呼び込む。

「ボクはのびのびやらせてもらいました」

「三浦と松本の4年生が投手をまとめてくれた。打線も内海が4番に入って安定した。経験のない投手が経験できたことが大きかった。秋に向けてプラス材料です」

背番号10を背負いフレッシュャーもあつたただ「ボクはのびのびやらせてもらいました」と言いながら前半戦の苦戦は主将として悩みの大きかった。それも実りの秋への布石。ベストナインも獲得しラストシーズンは開幕から全開モードで突入するつもりだ。

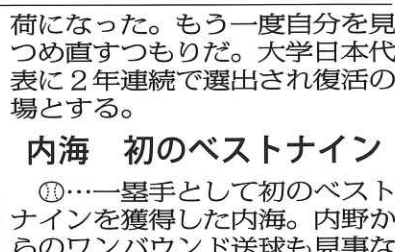


神原 不完全燃焼圏. 277 「1打席目の大事さ痛感」

①…打率.277。神原にとって物足りないシーズンとなった。「1打席目の大事さを痛感した」チームの主軸として結果を出さないで、力が入り凡打が多くなった。そんな中でも2本塁打を放ち通算でも現役最多の11本と二ケタに載せた。「最初に打てないと、どんどん力んでしまった。そこが反省点」と振り返る。ドラフト候補という肩書きも重

が中継ぎとして、松本直が抑えて役として機能し先発に起用された平嶋、湯田の2人も2勝をマーク。中盤から投手の形が出来るようになった。

荷になった。もう一度自分を見つめ直すつもりだ。大学日本代表に2年連続で選出され復活の場とする。



神原 不完全燃焼圏. 277 「1打席目の大事さ痛感」

①…一塁手として初のベストナインを獲得した内海。内野からのワンバウンド送球も見事なクラブさばきで素晴らしい守備が大きなポイントとなった。ただ打率.3260（8位）と安定したが、内海の素質からすれば不満も。「秋はもっと打ちます」と打撃タイトル獲得を狙う。

ベスト9となつた内海の打撃

開幕前に投打低調&エース大室負傷離脱

終わってみれば9勝3敗、勝ち点4と最後まで優勝争いに加わった2位と健闘した明大。しかし前半は手探りの試合が続き戸塚俊美監督は苦悩の連続だった。Bクラスも覚悟したという指揮官はどう戦ったのか検証してみた。

「最初はどうかと思う」と
開幕前の不安が的中し、投げられないとなつた。キャンプ&オープン戦を通じて投打ともに調子が上がってこない。昨秋、最優秀防御率のタイトルを獲得した大室が肩の不調を訴えリーグ戦の登板が難しくなった。第1戦を大室、2戦目を湯田が平嶋や他の候補も検討していたからだ。その大黒柱が消え、入学から期待している湯田を第1戦、平嶋を第2戦とローテを再編。ぶっつけ本番でリーグ戦に臨んだ。

東大2回戦では先発の平嶋、救援の栗原英豊（4年）松商学園浦久響（3年）日本航空石川（中村海斗（同明大中野）と全員がリーグ戦初登板。先発して力投した平嶋が、リーグ戦初勝利を挙げたが、戸塚監督の苦肉の策となった。「大室が

再編ローテぶっつけ本番 第1戦湯田、第2戦平嶋

「最初はどうかと思う」と。湯田と平嶋で行くこと。経験が少ないが何とか成長してほしいと送り出し、大室には連勝したものの慶大はそんな甘くなかった。第1戦は失策から失点し1点差負け、2回戦は打線の奮起で、3回戦は湯田が四球から長打を喫し勝ち点を落とした。続く立大1回戦も完封され、6試合を終わって3勝3敗。合を終わって3勝3敗。さすがに「Bクラスを覚悟した」と指揮官は振り返った。

しかし、経験が少しづつ身をつまみ立大2回戦では平嶋が先発でリーグ2勝目をマーク。3回戦は救援の湯田も初勝利をつかみ少しずつ自信へとつながっていった。

不振の打線も途中から4番に内海を据え安定。岡田、榊原のドラフト候補も調子を取り戻し、早大、法大に連勝。松本直も抑え役として機能、6連勝で春を終えた。

「最初はどうかと思う」と。経験が積み重なった。湯田が一本立ちしたのが大きかった。戸塚監督というように、勝ち星は2勝ながら防衛率1.50の2位と奮闘した。「夏に鍛えて投手力をもっと引き上げたい。大室も戻ってくるだろうし、秋は（慶大を）ギャップと言わせたい」と意気込む。投手が強化されれば打線は一級品。秋連覇に向け、イノシシ軍団が突進する。



岡田攻守でけん引

①…ベストナインは逃したが二塁手として岡田が攻守でチームを引っ張った。リーグ戦中、左手首を痛め2試合を欠場したが痛みをおして復帰。打率.333（5位）2本塁打、9打点としっかり成績を残した。足を生かしてランニング本塁打もマーク＝写真。学生日本代表に選ばれ、秋はさらに飛躍する。



法大戦の延長11回、決勝打を放った光弘

大室「秋は必ず」

①…天国と地獄を味わったと言った方がいいかもしれない。昨秋は最優秀防御率のタイトルを獲得した大室が春は肩の不調で選手的生活をスタンドから見ることが多かった。

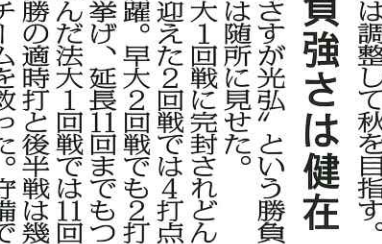
「最終には出てきて欲しい」（戸塚監督）と組白戦やオープン戦に登板させたが結果が出ず登板出来るようになった。「秋は必ず登板出来るよう頑張ります。そこが先を見据えています。肩の不調はほぼ完治し急がず、夏は調整して秋を目指します」。



法大戦の延長11回、決勝打を放った光弘

光弘 打撃不調も勝負強さは健在

①…光弘にとって経験のない苦しいシーズンとなった。「オープン戦では打てていたのに、何で打てないのか頭の中がぐちゃぐちゃになってしまった」と振り返る。打率は.205と38位。最低でも3割、プロも視野に入る男に決勝の適時打と後半戦は幾度もチームを救った。守備でも三遊間の深い当たりを素早い送球でアウトにするなど、成長の跡を見せた。秋こそ復活、光弘は猛暑の夏にもバットを振り続ける。



法大戦の延長11回、決勝打を放った光弘

開幕6試合終了時点で3勝3敗 戸塚監督「Bクラスを覚悟した」



「終盤には出てきて欲しい」（戸塚監督）と組白戦やオープン戦に登板させたが結果が出ず登板出来るようになった。「秋は必ず登板出来るよう頑張ります。そこが先を見据えています。肩の不調はほぼ完治し急がず、夏は調整して秋を目指します」。

ゴールデンルーキー躍動!! 早大エース・高橋煌からリーグ戦1号

横浜高校出身

優勝は逃したものの、明るい話題はルーキーで三塁手の座をつかんだ為永皓（横浜）。立大2回戦からスタメン出場、攻守にハツツとした動きを見せ首脳陣の期待にこたえてみせた。

さすが横浜出身と周囲が思った。昨年の選抜大会で優勝、U-18高校日本代表の主軸として活躍し明大の門を叩いた。堅実な守備とシユアな打撃。ベンチ入りはしていたが、戸塚監督は立大1回戦からスタメン起用を決断した。

「守備がいいんですよ。打撃も悪くないのでスタメンで行こうと決めました」

慶大1回戦では先制しなから三塁手の悪送球から追いつかれ痛い試合を失った。そういう背景も手伝って練習から好守を見せる為永起用を決めたのだ。

8番でスタメン起用されると初打席で左前にリーグ初安打。5回にも遊撃内野安打を放ってマルチ安打を



早大・高橋煌からリーグ初本塁打を放った為永



三塁でも安定した守備を見せた為永

戸塚監督「守備がいいんですよ」

戸塚監督は、三塁手の為永皓（横浜）の守備について、非常に高い評価を述べている。彼は、自分の力不足を痛感し、練習で同僚の阿部（早大）からアドバイスをもらっている。阿部は、三塁手の守備について、非常に高い評価を述べている。彼は、自分の力不足を痛感し、練習で同僚の阿部（早大）からアドバイスをもらっている。阿部は、三塁手の守備について、非常に高い評価を述べている。彼は、自分の力不足を痛感し、練習で同僚の阿部（早大）からアドバイスをもらっている。

4年生でつかんだスタメン

津田「やれる自信はついた」

ルーキー・為永とは対照的に4年生でレギュラーを獲得したのが津田。昨年は代走・守備固めで起用されたが、今季は右翼のレギュラーとしてスタメンに名を連ねた。元々は内野手として入学したが足の速さを生かして外野手に転向。開幕の早大1回戦でリーグ初安打のマルチ安打

を記録。幸先いいスタートを切ったが、その後はヒットが出ずスタメン落ちも味わった。

しかし相手投手のスピードに慣れようと早大1回戦から4試合連続ヒットを記録し打率も・292まで押し上げて貢献した。「結果には満足してませんが、やれる自信はつきました。秋はもっと上位につなげる打撃をしてベストナインも狙える選手を目指します」と燃える。ファウルフライを追いかけフェンスに激突するほど闘志満々。津田が成長すれば打線に厚みが増し得点能力もぐっと上がるはずだ。

為永 攻守で新風吹かす

東京六大学2026年春季L Play Back



うれしい初安打

春季リーグ戦で初安打を記録した選手も多くいた。＜東大1回戦＞6回に代打で出場した内藤大翔（4年＝天理）が中前打。＜立大2回戦＞二塁手としてスタメン出場した河田遼太郎（3年＝愛工大名電）が7回に遊撃内野安打。8回には佐仲大輝捕手（同＝山梨学院）が中前打。

◇東京六大学野球選手とベストナイン◇

項目	選手名(所属)	票	回
投手	渡辺和(慶)	満	初
捕手	福原聖矢(明)	6	初
一塁手	内海優太(明)	9	初
二塁手	今津慶介(慶)	8	初
三塁手	小村旺輔(東)	5	初
遊撃手	林 亮陽(法)	満	2
外野手	境 純司(慶)	満	13
指名打者	徳丸快晴(早)	満	12
首位打者	中塚遼(慶)	満	10
最優秀投手	井上和輝(法)	7	初
最優秀打者	小原大和(慶)	7	初
首位打者	徳丸快晴(早)	率.388	
最優秀投手	渡辺和(慶)	防1.28	

※満票は14。回は受賞回数

◇東京六大学野球打者成績10傑◇

選手名(所属)	打率	国	打	安	打点	盗
①徳丸(早)	.388	13	49	19	8	2
②境(法)	.383	12	60	23	12	0
③丸山(立)	.361	11	36	13	10	2
④林純(慶)	.340	13	53	18	13	0
⑤岡田(明)	.333	10	42	14	9	2
⑥小原(慶)	.3272	13	55	18	11	2
⑦今津(慶)	.3265	13	49	16	15	2
⑧内海(明)	.3260	12	46	15	14	1
⑨吉開(慶)	.3255	13	43	14	7	1
⑩中塚(慶)	.324	10	37	12	11	2

◇東京六大学野球投手成績7傑◇

選手名(所属)	防	回	試	勝	敗	責
①渡辺和(慶)	1.28	56⅓	9	7	2	8
②平嶋(明)	1.50	30	5	2	0	5
③助川(法)	2.15	37⅓	7	1	2	9
④湯田(明)	2.84	25⅓	6	2	2	8
⑤松本慎(東)	3.12	34⅓	6	1	2	12
⑥高橋煌(早)	3.45	31⅓	5	1	2	12
⑦田中(立)	5.40	30	6	3	3	18



福原、内海ベストナイン

春季リーグ戦終了後、ベストナインが発表され福原、内海両選手が選出された。(満票14票)

▽福原聖矢捕手(6票＝初) 12試合、打率.302(18位)、0本、8打点。

▽内海優太一塁手(9票＝初) 12試合、打率.326(8位) 1本、14打点。

◇東京六大学野球春季リーグ戦勝敗表◇

順	大学名	慶	大	明	大	立	大	法	大	早	大	東	大	試	勝	敗	分	点	勝率
①	慶大	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13	10	3	0	5	.769
②	明大	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	9	3	0	4	.750
③	立大	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11	5	6	0	2	.455
④	法大	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	12	5	7	0	2	.417
⑤	早大	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13	4	8	1	1	.333
⑥	東大	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11	2	8	1	1	.200

4月11日神宮口明大1勝
東大000 000 200|2
明大000 200 01X|3
勝三浦1試合1勝0敗
勝三浦1試合0勝1敗

4月12日神宮口明大2勝
明大401 050 020|12
東大000 000 000|0
勝三浦1試合1勝0敗
勝三浦1試合0勝1敗

5月3日神宮口明大1勝1敗
明大002 005 420|13
立大100 101 000|3
勝三浦1試合0勝1敗
勝三浦1試合0勝1敗

5月4日神宮口明大2勝1敗
立大400 100 000|5
明大240 002 00X|8
勝三浦1試合1勝0敗
勝三浦1試合0勝1敗

投手陣奮闘

＜東大＝2勝＞初先発の湯田が粘投、8回に勝ち越して先勝。2回戦はリーグ初登板の4投手で連勝決める。

4月25日神宮口慶大1勝
明大002 000 000|2
慶大002 010 00X|3
勝三浦1試合2勝0敗
勝三浦1試合0勝1敗

4月28日神宮口明大1勝1敗
慶大001 000 000|1
明大300 130 10X|8
勝三浦1試合1勝0敗
勝三浦1試合0勝1敗

4月27日神宮口慶大2勝1敗
明大200 000 000|2
慶大040 041 01X|10
勝三浦1試合3勝0敗
勝三浦1試合0勝2敗

延長制した

＜早大＝2勝＞1回戦は延長10回6安打を集中して先勝。2回戦は打線が12安打を放って連勝、勝ち点3

5月23日神宮口明大1勝
明大000 000 000|11
法大000 000 000|0
勝三浦1試合1勝0敗
勝三浦1試合0勝2敗

5月24日神宮口明大2勝
法大001 100 000|2
明大100 010 01X|3
勝三浦1試合2勝1敗
勝三浦1試合0勝2敗

打線が低調

＜慶大＝1勝2敗＞1、3回戦とも左腕・渡辺和に苦しみ打線も低調。2回戦のみ快勝も失策、四球で敗戦。

5月2日神宮口立大1勝
立大100 000 000|1
明大000 000 000|0
勝三浦1試合1勝0敗
勝三浦1試合0勝2敗

打線が本領

＜立大＝2勝1敗＞1回戦は完封負け。2回戦から打線が本来の力を見せ、

5月2日神宮口立大1勝
立大100 000 000|1
明大000 000 000|0
勝三浦1試合1勝0敗
勝三浦1試合0勝2敗

継投策実る

＜法大＝2勝＞延長11回、平嶋一松本直のリレーで完封。2回戦も3投手のリレーで競り勝つ。

(上から) 立大3回戦で本塁打を放った田上 リーグ初安打初打点の河田 4年生として先発&救援をこなした三浦



ベストナインに輝いた内海(左)と福原

フレッシュTで存在感示した 岡田の後釜として期待 楽しみな逸材!!1年生・富田祥太郎

フレッシュ2試合目の立大戦だった。富田は左打席から3安打1打点をマーク。バットコントロールが巧みでバットの出る角度もいい。3位決定戦の慶大戦でも1安打1打点と結果を出した。試合を見守った戸塚俊美監督や首脳陣、善達達也元監督も「富田はいいね。楽しみだ」と口をそろえた。

巧打といってしまうと長打力は?と思うってしまうが、3年夏の奈良県予選では4試合連続本塁打の快挙を達成。入

フレッシュで将来性を感じさせた富田

フレッシュ2試合目の立大戦だった。富田は左打席から3安打1打点をマーク。バットコントロールが巧みでバットの出る角度もいい。3位決定戦の慶大戦でも1安打1打点と結果を出した。試合を見守った戸塚俊美監督や首脳陣、善達達也元監督も「富田はいいね。楽しみだ」と口をそろえた。



フレッシュで将来性を感じさせた富田

2年・中村優太
秋のDH候補に

フレッシュ出場の中村優太は、秋のDH候補に。フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。

フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。

フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。

今年も有望な新人が入部した。選手27人、学生コーチ1人、アナリスト2人、マネジャー4人の計34人です。基礎体力をつけ、神宮デビューに向けて練習に励む。

2026年度 1年生名簿				
ポジション	氏名	身長	体重	出身校
投手	相澤 希	167	72	市立大王子
	上原 祐	177	81	明大八王子
	鈴木 翔	178	85	松学舎大
	及川 大	174	75	高野川
	鈴木 駿	175	77	明大航空
	田中 希	177	78	明大航空
	堀田 希	182	90	高松商
	梅田 希	186	94	高松商
	渡辺 希	180	87	高松商
	渡辺 希	180	87	高松商
捕手	岡部 純	170	75	明大八王子
	村田 純	170	74	明大八王子
	吉崎 純	172	77	明大八王子
一塁手	秋山 裕	176	77	健明大
	坂本 裕	183	82	健明大
二塁手	富田 祥	183	86	天徳学
	山岡 純	179	82	天徳学
三塁手	為永 皓	173	83	横東明
	山口 皓	174	78	横東明
遊撃手	石田 陽	175	73	浦小広
	岡村 陽	181	77	浦小広
	白髪 陽	180	80	東海大
	前田 陽	177	75	東海大
外野手	小嶋 空	173	73	明大八王子
	鈴木 聖	181	83	横千
	中野 聖	172	79	横千
学生コーチ	加藤 颯	165	62	明大八王子
	石井 健	164	62	明大八王子
アナリスト	青木 一	163	70	明大八王子
	島田 菜	169	76	明大八王子
マネジャー	青木 一	163	70	明大八王子
	島田 菜	169	76	明大八王子

フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。

フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。

氏名	身長	体重	出身校
相澤 希	167	72	市立大王子
上原 祐	177	81	明大八王子
鈴木 翔	178	85	松学舎大
及川 大	174	75	高野川
鈴木 駿	175	77	明大航空
田中 希	177	78	明大航空
堀田 希	182	90	高松商
梅田 希	186	94	高松商
渡辺 希	180	87	高松商
渡辺 希	180	87	高松商
岡部 純	170	75	明大八王子
村田 純	170	74	明大八王子
吉崎 純	172	77	明大八王子
秋山 裕	176	77	健明大
坂本 裕	183	82	健明大
富田 祥	183	86	天徳学
山岡 純	179	82	天徳学
為永 皓	173	83	横東明
山口 皓	174	78	横東明
石田 陽	175	73	浦小広
岡村 陽	181	77	浦小広
白髪 陽	180	80	東海大
前田 陽	177	75	東海大
小嶋 空	173	73	明大八王子
鈴木 聖	181	83	横千
中野 聖	172	79	横千
加藤 颯	165	62	明大八王子
石井 健	164	62	明大八王子
青木 一	163	70	明大八王子
島田 菜	169	76	明大八王子
青木 一	163	70	明大八王子
島田 菜	169	76	明大八王子

フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。フレッシュで存在感を示した中村優太は、秋のDH候補に。

栗原 リーグ戦初白星 心臓手術乗り越えた

慶大2回戦に3番手で2回零封



心臓手術乗り越えた
術を乗り越え
えり初勝利
原栗

昨年春にめまい...不整脈の診断
ウイニングボールはしっかりポケットにしま
い込んだ。慶大2回戦、3番手で登板した栗原
が2イニングを無安打無失点に抑え、うれしい
白星をついた。

「試合が終わってロッカーで勝ちの裏話だと
聞いて、えっボクですか?って。びっくりしま
した」栗原は記念のリーグ戦初勝利のボールを
観戦に来ていた両親に感謝の気持ちを込めて渡
した。

「昨年の今頃を考えると信じられないね。戸
塚監督は思わすぶやいた。実は、昨年春のこと
めまいがしたため、病院の検査を受けると
不整脈と診断された。「早く考えていて貧血か
なんかと思ってたんだ」(栗原)。前から
走った後、心拍数が異常に速くなる症状があっ
たため医師の勧めもあり心臓のカテーテル手術
に踏み切った。2カ月間は安静、徐々に体を慣
らし練習に参加したのは春のリーグ戦が終わる
頃だった。

左腕から大きなカーブが武器。登板しない日
も黙々とブルペンで準備した。秋に向けては「必
ずベンチに入るとは限らない。もっとレベル
を上げてチームの役に立ちたい」V奪回に欠か
せない左腕になるべく栗原の努力は続く。

3年・浦久はトミージョン手術乗り越えた
救援で好投した浦久

①...春のリーグ戦で初
登板を果たしたのが浦久
響(3年=日本航空石
川)。高3秋に右ヒジの
トミージョン手術を行っ
た。辛いリハビリをこなして
きた。良くなったと思え
ば痛みが出てしまうの繰
り返し。やっと今春の宮
崎キャンプで投げ込みが
出来るまで回復。臨時コ
ーチの武田一浩氏から
「キャンプで一番いい」
とお褒めの言葉ももらっ
た。「自然となった」と
いう小さなテークバック
から140km/h中盤の速球に
スプリットで何度もピン
チを救った。後半の早大
戦は失点したが最初の5
試合は無失点。「浦久が
良く投げた」と指
揮官も喜んだ。「フィジ
カル面をもっと鍛えて秋
も頑張りたい」遅れてき
た右腕が秋も救援でチ
ームを救うつもりだ。

救援で何度もチーム救った「秋も頑張りたい」
◇日本代表入り 6月20日から
大学日本代表候補の選考合宿が神
奈川県内で行われ、俊足巧打の岡
田啓吾内野手が初の日本代表入
り。昨年に侍JAPAN入りし全
試合にスタメン出場し日本優勝に
貢献した神原七斗外野手は2年連
続で選出された。2人は口をそろ
え「チームのために大暴れしてき
たいと思います」と力強い抱負。今
回は日米野球ではなく「ワールド・カ
レッジ・ベースボールチャンピオン
シップ」として7月11日から台湾で
行われた。参加チームは日本、台湾、
米国、招待として韓国の4チーム。

勝ち星2勝でもリーグ2位の防御率1.50

平嶋桂知エース格に成長



2勝ながらエース格に成長した平嶋

チームに「ルーキー賞」があるから間違いないと受賞したのが平嶋桂知投手（2年II大阪桐蔭）だろう。リーグ戦初登板から経験を積むごとにたくましさを増し、最後はエースに成長。勝ち星は2勝ながら防御率1.50の2位と大健闘。秋へ大きな収穫となった。

大室の穴埋めた

つた時点で戸塚監督は平嶋の右腕に託した。まだ2年生。開幕の東大2回戦に先発させると6回をわずか1安打無失点、初めて期待した大室が肩の不安を結果で応え



「大室がダメで投手をどうするか。オープン戦の結果を見て湯田と平嶋を先発にした。もちろん不安はありました」指揮官はそう言って開幕前の心境を説明した。ともにリーグ戦の経験は少ない。折るような気持ちでマウンドに送った。東大戦で1勝すると慶大2回戦、立大2回戦と登板を重ね、立大戦で2勝目をマーク。終盤の早大戦からは1回戦を任せられるようになり、最終登板となった法大1回戦は8回を零封。勝ちこそつかないが、自身最長イニングを投げ切り終盤の6連勝を支えた。

戸塚監督の方針で完投なしも本人は「1試合投げ切りたい」

「リーグ戦初登板は地に足つけて投げられるよう気をつけました。投げ

打者を打ち取り渾身のガッツポーズを見せる平嶋。150km/hを超えるストリートにカット、スライダー、ツーシームなど多彩な変化球もある。「真っ直ぐを見せ球に変化球を生かす投球。1回戦に投げるようになって、気合い入り過ぎて空回りしないようにした。普段通りの投球をしようと思

秋は「打倒慶大」で結束して「ギャフン」と言わせよう

▼春のシーズンを振り返ったとき、連覇を逃した悔しさより勝ち点を4まで伸ばし最後まで優勝争いを展開。正直、さすが明治と後輩を誇らしく思った。

▼投手力が苦しい状況なのは開幕前から分かっていた。しかも慶大の戦力が充実して2カード目の同カードがカギだと思っていた。案の定、1勝2敗で勝ち点を落とした。

▼次の立大戦の初戦を落としたときはBクラス転落まで頭をよぎった。コロナ禍が終わり22年春から従来の勝ち点制に戻ってから8シーズンで4度の優勝、すべてでAクラスを確保してきた。

▼そんな心配も杞憂に終わった。野球は生き物というが、リーグ初登板の平嶋や湯田が経験を積んで成長。後半の6連勝は打線も呼応し負けない明治を示してくれた。

▼秋はどうか。慶大が「明治を倒さない」と優勝はない」と立ち向かったように「慶大を倒す」の思いで結束してくれるはず。戸塚監督のセリフではないが「ギャフン」と言わせてやりましょう。

（広報委員長 落合 紳哉）



今季2勝を挙げ規定投球回数に達した湯田

湯田も先発と救援で2勝。秋へ制球力磨いて進化期待

平嶋とともに先発と救やと神宮のマウンドを援として2勝をマークし踏んだ。

湯田。リーグ戦の開幕投手を務め戸塚監督の期待の大きさがわかる。入學したときから「湯田に期待している」と公言、2年までは故障などであり、2敗はともに湯田の黒星となりナインの信頼度は低下。立大2回戦では中継ぎに降格したが3回を力投しリーグ戦初白星。

早大2回戦では再び先発に戻り、今季2勝を挙げ規定投球回数に達した湯田

まだ制球力の不安が顔を出し、慶大3回戦では四球のあとに長打を浴び、最悪の結果に。慶大の2敗はともに湯田の黒星となりナインの信頼度は低下。立大2回戦では中継ぎに降格したが3回を力投しリーグ戦初白星。

「とりあえず初登板で勝てたのは良かった。でもまだ通用できていない。納得するボールが投げれていないしコントロールがね。低めにもっと強いボール投げたい。もっとスタミナもつけて秋は長いイニングを投げ切りたい。高2年時には甲子園優勝に導いた右腕。能力の高さは誰もが認めるところで、制球に磨きかければ一級品のスライダーがさらに生きる。秋は湯田の右腕に期待